

ワンタッチウルトラ™

取扱説明書

最初にお読みください

測定器の電源を入れると、測定単位と  記号が画面に表示されます。それぞれの測定結果に測定単位が表示されます。

測定器が正しくない測定単位に設定されていると、血糖値が誤って解釈される可能性があります。測定器の測定単位がmg/dLに設定されていることをご確認ください。



測定器が正しい測定単位に設定されている場合、画面に「mg/dL」が表示されます。

この場合、測定結果に小数点は表示されません（図1）。

これが正しい測定単位ですので、設定を変更しないでください。

図 1: mg/dL
ミリグラム パー デシリットル
測定結果に小数点は表示され
ません



図 2: mmol/L
ミリモル パー リットル
測定結果に小数点が表示
されます

測定器が他の測定単位に設定されている場合、画面に「mmol/L」が表示されます。この場合、測定結果に小数点が表示されます（図2）。この測定単位を使用するよう医師から指示されている場合を除き、この測定単位に設定されている測定器で血糖値を測定しないでください。測定単位がmmol/Lで表示されている場合は、**コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。**

血糖値を測定する際は、測定単位がmg/dLになっていることを必ず確認してください。他の測定単位を使用すると、血糖値が誤って解釈され、適切でない治療が行われる可能性があります。

ワンタッチウルトラ™をお使いの方へ：

本書にはワンタッチウルトラ™についてご理解いただかなければならない重要な情報が記載されています。最後までよくお読みくださるようお願いいたします。

警告：実際の血糖値より高値を示すことがあるので、以下の患者には使用しないこと。[その偽高値に基づきインスリン等の血糖降下剤を投与することにより、昏睡等の重篤な低血糖症状があらわれるおそれがある。]

- ・ プラリドキシムヨウ化メチルを投与中の患者

目次

システムについて	vi	メモリー機能の使い方	34
ワンタッチウルトラ™			
血糖自己測定システム	4	測定器と検査室での測定結果の比較	36
ワンタッチウルトラ™			
(自己検査用グルコース測定器)	5	測定器の設定	38
ワンタッチウルトラ™			
画面表示	6	お手入れ	42
LFSクイックセンサー®	8	ワンタッチウルトラ™	
		(自己検査用グルコース測定器)	42
測定の前に	10	ワンタッチウルトラソフト™	
画面の確認	10	(穿刺器具)	42
センサーのコード番号の確認	10	電池	43
コントロール溶液による			
システムのテスト	13	画面表示とトラブル時の対処法	46
血糖測定	20	仕様	56
ワンタッチウルトラソフト™			
(穿刺器具)を準備する	21	保証	57
指先からの採血	24		
前腕からの採血	25		
測定手順	28	索引	58
使用済みのセンサーおよび			
ランセットの廃棄	31		
重要な画面表示	32		

システムについて

ワンタッチウルトラ™には最新の血糖自己測定技術が駆使されています。本測定器は、LFSクイックセンサー®の生成する電流を測定することにより、血中のグルコース濃度を測定します。測定結果は「血漿値」に換算されて表示されます。そのため、本測定器の測定結果を検査室での測定結果と簡単に比較できます。全血グルコース濃度が表示されるタイプの測定器をお使いだった場合には、ワンタッチウルトラ™では約12%ほど高い測定結果が予測されます。



ワンタッチウルトラ™血糖自己測定システムは、ワンタッチウルトラ™（自己検査用グルコース測定器）、LFSクイックセンサー®（別売）、LFSクイックセンサー®専用コントロール溶液の3つの主要製品で構成されています。これらの3つの製品は1つのシステムとして機能することによって、正確な血糖測定が行えるように設計、検査、検証されています。**本測定器には他機種のセンサーやコントロール溶液を使用しないでください。**

注意：測定構成品に何か問題があるため測定できない場合は、医師またはコールセンター（無料通話：0120-113-903）にご連絡ください。測定できない場合、治療の判断に遅滞が生じたり、重大な病状につながるおそれがあります。

ワンタッチウルトラ™は、体外診断用で新鮮な毛細管全血の血糖測定にのみご使用ください。糖尿病の診断や新生児の血糖測定検査には使用しないでください。

注意：

本説明書をよくお読みいただいた上で測定を行ってください。本品が正しく機能するかの確認は医師の指示にしたがってください。

注意点

■ 脱水症状：

重症の脱水症状があるときは、測定結果が低めになるおそれがあります。
自覚症状がある場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

■ 低血糖：

測定結果が70 mg/dL未満の場合または「LO」と表示された場合は、低血糖（血糖値が低い状態）が疑われます。ただちに医師の指示にしたがってください。

■ 高血糖：

測定結果が180 mg/dLを超える場合または「HI」と表示された場合は、高血糖（血糖値が高い状態）を意味します。ただちに医師の指示にしたがってください。

■ 予期せぬ結果が繰り返し出る場合：

予期せぬ結果が繰り返し出る場合は、コントロール溶液を使ってテストを実施してください。（13-19ページ）

取扱説明書の記載どおりに測定を行っているにもかかわらず、自覚症状と血糖測定結果が合わない場合は、医師にご相談ください。医師に相談なく、自覚症状を無視したり、糖尿病治療などを中断・変更しないでください。

■ ヘマトクリット値：

ヘマトクリット値（血液中に占める赤血球の容積）が非常に高い（55%を超える）または非常に低い（30%未満）場合は、正確な測定結果が得られない可能性があります。

■ ワンタッチウルトラ™を落としたり衝撃を与えないよう、お取り扱いにはご注意ください。

■ 測定後、測定結果の右下に表示される測定単位がmg/dLであることをご確認ください。測定単位がmmol/Lで表示されている場合は、使用を中止し、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。

警告：本測定器および構成部品は、お子様の手の届かない所に保管してください。電池のふた、LFSクイックセンサー®、ランセット、保護キャップ、コントロール溶液のキャップは飲み込んだりすると危険です。

ワンタッチウルトラ™ 血糖自己測定システム



① ワンタッチウルトラ™
(自己検査用グルコース
測定器)

② 取扱説明書 (本書)

③ 簡易取扱説明書 (クイック
リファレンスガイド)

④ ワンタッチウルトラソフト™
(穿刺器具)

⑤ 透明キャップ
(前腕からの採血用)

⑥ ワンタッチウルトラソフト™
ランセット

⑦ LFSクイックセンサー®
専用コントロール溶液

⑧ キャリングケース

保証書およびお客様登録カード

3Vリチウム電池 (CR2032)

※LFSクイックセンサー® (別売)

ワンタッチウルトラ™ (自己検査用グルコース測定器)

画面

記号、簡単なメッセージ、測定結果が表示されます。

センサー挿入口

ここにLFSクイックセンサー®を挿入すると、ワンタッチウルトラ™に電源が入ります。



Mボタン

以下の画面への切り替えができます。

- ▶ 設定画面
- ▶ メモリー画面

データポート

測定結果をコンピュータに転送するときに使用します。

Cボタン

以下の場合に使用します。

- ▶ 日付・時刻、LFSクイックセンサー®のコード番号を変更するとき
- ▶ コントロール溶液の測定結果として記録するとき
- ▶ メモリーに記録した測定結果を確認するとき

ワンタッチウルトラ™

画面表示

ctl

コントロールテストの結果であることを示します。

code

LFSクイックセンサー®のコード番号とともに表示されます。測定のたびにコードをご確認ください。

しずくマーク (💧)

血液をLFSクイックセンサー®につけるタイミングを示します。

電池記号

電池が消耗している場合や、交換が必要な場合に表示されます。

AM/PM記号

12時間表示に設定されているときは、AM/PMのどちらかが表示されます。

DAY AVG記号

過去14日または30日の平均が表示されているときに表示されます。

ketones?

測定結果が240 mg/dLを超える場合に表示されます。この場合、ケトン体検査を受けられることをお勧めします。

mem

メモリーに記録されている測定結果であることを示します。

code ctl ketones? mem



測定結果表示部

測定結果がここに表示されます。

mmol/L mg/dL

測定単位が表示されます。正しい測定単位と  記号が表示されていることを確認してください。

警告：測定単位は mg/dL で表示されます。測定単位が mmol/L で表示されている場合は、使用を中止し、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。



mmol/L mg/dL

10-00 DAY 00:00 AM
00:00 PM

月

日

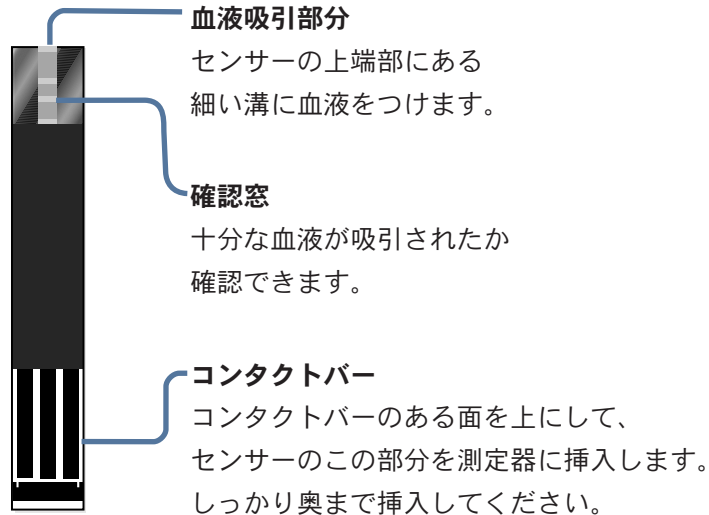
時

分

注意：mmol/Lと小数点が画面に表示されますが、測定結果が表示されているときは表示されません。

LFSクイックセンサー®

ワンタッチウルトラ™（以下、測定器）を用いて血中のグルコース濃度を測定します。血液をLFSクイックセンサー®（以下、センサー）の上端部につけると、自動的に吸引されて反応が起こります。



センサーの取扱上の注意

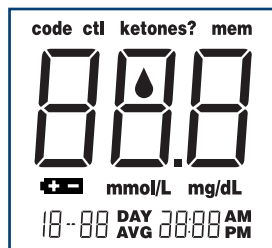
- センサーの入った容器は30℃未満の乾燥した涼しい場所に保管してください。直射日光や高温を避けてください。**冷蔵庫や冷凍庫に入れないでください。**
- センサーは、**必ず購入時に入っていた容器**に入れて保管してください。損傷や汚染を防ぐために、**別の容器などに移し替えて保管しないでください。**
- センサーを容器から出したら、ただちに容器のキャップをしっかりと閉めてください。
- 容器から取り出したセンサーは、ただちに使用してください。
- センサーは、容器のキャップが開いていたり、容器に破損がある場合は、エラーメッセージが表示されるか、正確な測定結果が得られない場合がありますため、**そのセンサーは使用しないでください。**また、センサーの容器に印刷されている文字が不鮮明な場合も、ただちにコールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。
- センサーの容器の開封時に、3ヵ月後の日付を容器ラベルに記入してください。処分日を過ぎたLFSクイックセンサー[®]は廃棄してください。
- 容器に印字されている**使用期限または処分日（どちらか早い方）を過ぎたセンサーは使用しないでください。**正確な測定結果が得られなくなるおそれがあります。
- センサーにはほこり、食べ物、液体などをつけないでください。清潔な乾いた手で扱ってください。
- **センサーを曲げたり、切断したり、改造しないでください。**
- センサーは1回限り使用できます。**血液またはコントロール溶液をつけたセンサーは再使用することはできません。**
- センサーにはLFSクイックセンサー[®]専用コントロール溶液または血液以外のものをつけないでください。
- センサーの箱に入っている添付文書もあわせてお読みください。

警告：センサーを飲み込まないようご注意ください。センサーの容器には乾燥剤が入っていますので、吸ったり飲み込んだりすると有害です。また、皮膚や眼が刺激されるおそれがあります。

測定の前に

画面の確認

センサーをワンタッチウルトラ™に挿入、または **M** ボタンを押して測定器の電源を入れるたびに、画面にすべての表示（右図参照）が一時的に表示されます。これは測定器が自動チェックを行っていることを示し、それによって正しく機能していることを確認できます。



すべての画面表示が正しく表示されていることを確認するには、**M** ボタンを押してからすぐに **C** ボタンを押してください。

センサーのコード番号の確認

正確な測定結果を得るために、測定器のセンサーのコード番号を確認して使用します。測定するときは毎回、測定器の画面に表示されるコード番号がセンサーの容器ラベルに印字されているコード番号と一致していることを確認してください。

注意： 測定器の画面に表示されるコード番号とセンサーの容器ラベルのコード番号が一致しないと、正しい測定結果が得られません。測定前に必ず、コード番号が一致していることを確認してください。

STEP 1

コード番号の 確認画面にする

センサーを挿入すると、測定器の電源が入ります。しっかり奥まで挿入して



ください。センサーを曲げないよう気をつけてください。チェック画面になり、すべての表示が現れます。次に、コード番号が約3秒間表示されます。

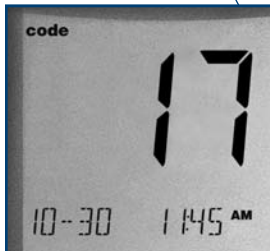
もし「---」が常に表示される場合は、46ページの「画面表示とトラブル時の対処法」を参照してください。

STEP 2

コード番号を確認する

測定器の画面に表示されるコード番号とLFSクイックセンサー®の容器ラベルに印字されているコード番号を比較します。コード番号が一致すれば、測定を始めることができます。一致していない場合は、ステップ3へ進みます。

注意：測定器の画面に表示されるコード番号とセンサーの容器ラベルのコード番号が一致しないと、正しい測定結果が得られません。測定前に必ず、コード番号が一致していることを確認してください。



例

注意：日時がしばらく表示されます。



例

STEP 3

測定器にコード番号を入力する

C ボタンを押して測定器にコード番号を表示し、正しいコード番号を選択します。**C** ボタンを押すたびに、番号が1つずつ進みます。**C** ボタンを押し続けると、番号が連続的に進みます。

注意：測定器に正しいコード番号を入力する前に （しずくマーク）が表示された場合は、センサーを取り出して、ステップ1～3を繰り返してください。

注意：正しいコード番号を過ぎてしまった場合は、正しいコード番号が再び表示されるまで **C** ボタンを押し続けてください。

正しいコード番号を選択すると、その番号が約3秒間点滅し、その後約3秒間表示されます。

注意：測定器の画面に表示されるコード番号とセンサーの容器ラベルのコード番号が一致しないと、正しい測定結果が得られません。測定前に必ず、コード番号が一致していることを確認してください。

次に、と測定単位（mg/dL）が表示され、測定の準備ができたことを示します。

警告：測定単位がmmol/Lで表示されている場合は、使用を中止し、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。



例



例



コントロール溶液によるシステムのテスト

コントロールテストの必要性

- ▶ LFSクイックセンサー®専用コントロール溶液（以下、コントロール溶液）を使って、測定器とセンサーが1つのシステムとして正しく機能するかどうか、また正しく測定が行えるかどうかをテストします。
- ▶ 正確な測定値を得るためには、この簡単なテストを日常的に行うことが重要です。

次の場合にコントロールテストを実施してください。

- ▶ 血液を使わずに測定を練習する場合
- ▶ 新しいセンサーの容器を開けて使用する時
- ▶ 測定器またはセンサーが正しく機能していないと思われる時
- ▶ 予期せぬ測定結果が繰り返し出ると思われる時（3ページ参照）
- ▶ 測定器を落としたとき



注意：LFSクイックセンサー® 専用コントロール溶液の箱に入っている取扱説明書もお読みください。

コントロールテストの開始前に

- ▶ LFSクイックセンサー[®] 専用コントロール溶液のみをご使用ください。
- ▶ コントロール溶液の容器ラベルに印字されている使用期限を確認してください。処分日（開封日から3ヵ月後）を容器ラベルに記入してください。使用期限または処分日（どちらか早い方）を過ぎたら使用しないでください。
- ▶ コントロール溶液、測定器、センサーは、測定前に室温（20～25℃）にしておいてください（血糖測定の許容温度範囲については56ページの「仕様」参照）。
- ▶ コントロール溶液の容器をよく振ってから最初の1滴目を捨て、先端部をきれいに拭いてください。正確な結果を得るためには、新鮮なコントロール溶液を使用してください。
- ▶ コントロール溶液はキャップをしっかりと閉めて30℃以下の室温で保管してください。冷蔵庫や冷凍庫に入れないでください。

警告：

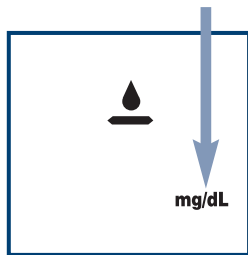
- ▶ コントロール溶液を飲み込まないでください。
- ▶ コントロール溶液は皮膚や眼を刺激するおそれがあるため、直接触れないようにしてください。

注意：センサー挿入口から測定器の中にコントロール溶液が入らないようにしてください。

STEP 1

センサーを測定器に挿入する

警告：測定単位がmg/dLで表示されていることをご確認ください。測定単位がmg/dLと表示されていない場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。



コンタクトバーのある面を上向きにして、図のようにセンサーをセンサー挿入口に挿入します。しっかり奥まで挿入してください。測定器の電源が入り、すべての表示が一時的に表示されます。

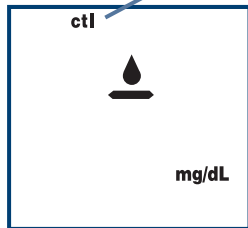
次に、コード番号が表示され、続いて  と測定単位 (mg/dL) が表示されます。測定器のコード番号とセンサーのコード番号が一致していることを確認します。一致していない場合は、測定器に正しいコード番号を入力してください。(10～12ページ参照)

STEP 2

この測定がコントロールテストであることをメモリーに記録する



画面に「ctl」の表示が出ているときは、コントロールテストの結果であることを示します。



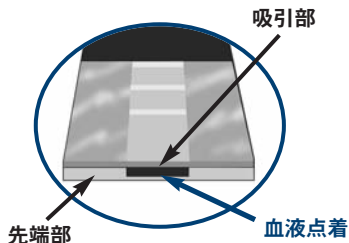
☑ ボタンを押して、画面に「**ctl**」を表示します。
コントロールテストを行わない場合は、再びCボタンを押すと「**ctl**」が消えます。

注意：コントロールテストはすべて「**ctl**」として記録して、測定器のメモリー内で血糖測定と区別されるようにしてください。「**ctl**」として記録したコントロールテストは血糖平均値には含まれません。

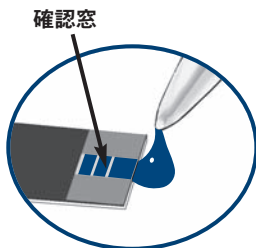
STEP 3

コントロール溶液をセンサーにつける

正確な結果を得るため、コントロール溶液の容器をよく振ってから最初の1滴目を捨て、容器の先端部をきれいに拭いてから測定を行ってください。



センサーの上端部にある細い溝にコントロール溶液をつけます。このときコントロール溶液をセンサーの挿入口に入れないようご注意ください。



コントロール溶液が細い溝に吸引されます。確認窓が完全に染まると、測定器は5から1まで秒読みを開始します。

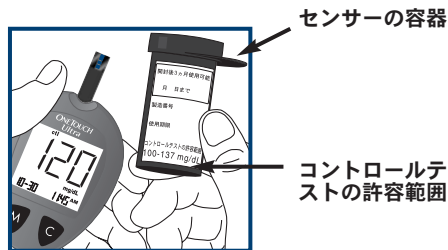


例

コントロールテストの測定結果が画面に表示され、その上に「ctl」が表示されます。このとき測定単位がmg/dLになっていることをご確認ください。

STEP 4

コントロールテストの結果をセンサーの容器ラベルに印字されている許容範囲と比較する



例

注意：センサーの容器ラベルに印字されている許容範囲はコントロール溶液の許容値です。血糖値の推奨範囲ではありません。

コントロールテストの結果が、センサーの容器ラベルに印字されている許容範囲外の場合は、測定器またはセンサーが正しく機能していないおそれがあります。コントロールテストをやり直してください。

コントロールテストの結果が範囲外になる原因として次のことが考えられます。

- 測定単位が正しくない。
(測定単位がmg/dLで表示されていない場合は、使用を中止し、コールセンターまでご連絡ください。)
- コントロール溶液の容器をよく振らなかった。
- 測定器のコード番号が正しくない。
- センサーが劣化している。
- 測定器が故障している。
- コントロール溶液の最初の1滴を捨て、容器の先端をきれいに拭かなかった。
- コントロール溶液の使用期限が過ぎているか、汚染されている。
- 測定器、センサー、またはコントロール溶液の温度が高すぎる、または低すぎる。

注意：やり直したコントロールテストの結果が、容器ラベルに印字されている許容範囲を引き続き超える場合は、測定器が正しく機能していないおそれがあります。

測定器の使用を中止して、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。

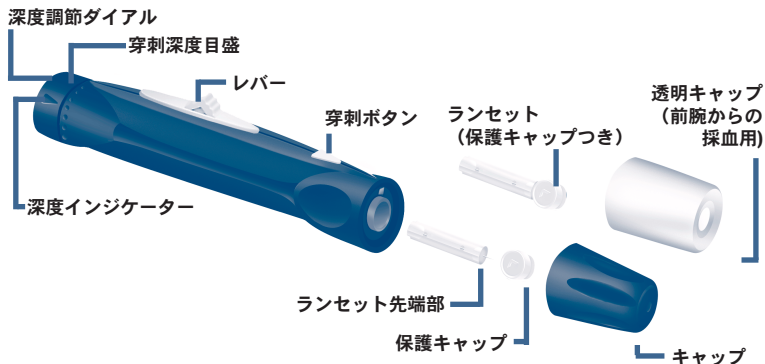
血糖測定

測定する前に、必ず本書とセンサーの箱に入っている添付文書をお読みください。測定に必要な器具が全部揃っていることを確認してください。

- ▶ ワンタッチウルトラ™（自己検査用グルコース測定器）
- ▶ LFSクイックセンサー®
- ▶ ワンタッチウルトラソフト™（穿刺器具）
- ▶ 透明キャップ（前腕から採血する場合）
- ▶ ワンタッチウルトラソフト™ ランセット



ワンタッチウルトラソフト™（穿刺器具） を準備する



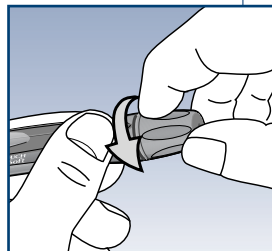
注意：感染を防止するために

- ▶ ワンタッチウルトラソフト™（穿刺器具）は他人と共有しないでください。
- ▶ 常に新しい、滅菌済みのランセットを使用してください。ランセットは1回限りの使用です。
- ▶ ワンタッチウルトラ™（測定器）とワンタッチウルトラソフト™（穿刺器具）は常に清潔にしておいてください。
- ▶ 穿刺前に石鹸と温水で穿刺部位を洗ってください。

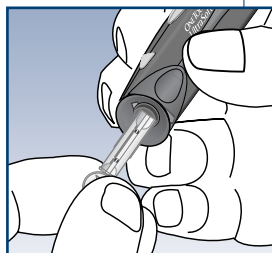
STEP 1

ランセットを挿入する

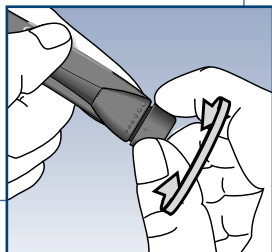
ワンタッチウルトラソフト™ のキャップを反時計回りに回して外します。



ワンタッチウルトラソフト™ ランセット（以下、ランセット）をワンタッチウルトラソフト™（以下、穿刺器具）のホルダーに奥までしっかりと取り付けます。このときランセットを**ねじ込まない**よう注意してください。保護キャップを静かにねじって外し、穿刺器具のキャップを再度つけます。キャップが所定の位置にぴったりとはまるまで時計回りに回します。



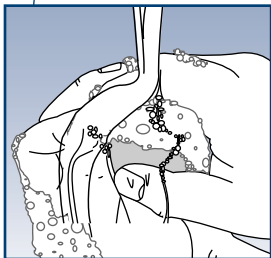
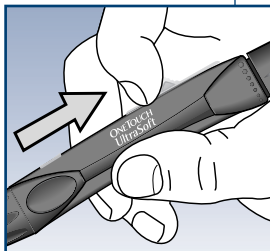
必要に応じて、穿刺の深さ設定を調節します。深度調節ダイヤルを小さな突起の方向に回すと穿刺が浅くなり、大きな突起の方向に回すと深くなります。



STEP 2

穿刺器具をセットする

レバーを「カチッ」と音がするまで後方にスライドさせます。音がしない場合は、ランセットを挿入したときに穿刺器具は既にセットされています。これで穿刺器具はいつでも使用できます。



STEP 3

手と穿刺部位を洗う

感染を防止するために、石鹸と温水で洗い、よくすすいで十分に乾かしてください。

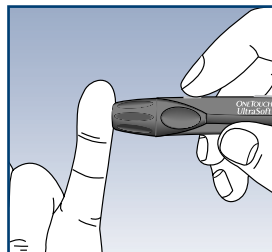
指先からの採血

ワンタッチウルトラ™では、**指先**または**前腕**から採血したごく少量の血液で血糖測定を行うことができます。（前腕からの採血については25ページ参照）測定ごとに穿刺部位を変えてください。同じ部位に何回も穿刺すると、痛みを感じたり、たこができることがあります。

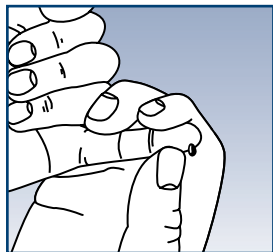
STEP 1

穿刺器具を穿刺部位にあてる

穿刺器具を穿刺する部位に押し当てて固定し、穿刺ボタンを押します。



注意：透明キャップは指には**使わないで**ください。



STEP 2

指先をマッサージする

指先を軽くマッサージすると血液を採取しやすくなります。穿刺部位を無理に押さえるなどして血液を**しぼり出さないで**ください。少なくとも1マイクロリットル（1 μ L：●）の血液量を採取してください。量が足りないと「E-5」のエラー（53ページ参照）が出ることがあり、正確な測定結果が得られません。血液をセンサーにこすりつけないでください。血糖値の測定に進んでください。（28-32ページの測定手順参照）

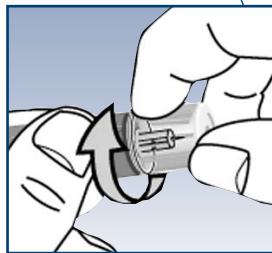
前腕からの採血

指先に比べ、前腕には敏感な末梢神経が少ないので、前腕からの採血は指先からの採血よりも痛みが少ないと言われています。前腕からの採血法は指先からの採血法と異なります。また、前腕から採取した血液と指先から採取した血液には違いがありますので、27ページに説明されている注意事項をよくお読みください。

STEP 1

透明キャップ（前腕からの採血用） を装着する

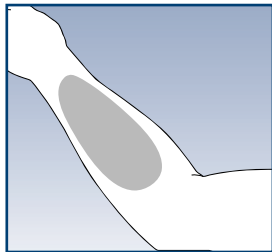
前腕から採血しやすくするため、穿刺器具のキャップを外して代わりに透明キャップを取り付けます。必要に応じて、穿刺器具の深さ調整を深く設定します。



STEP 2

穿刺部位を選ぶ

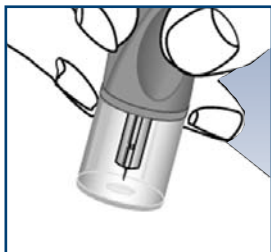
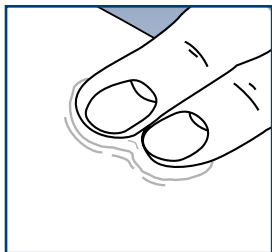
血管や毛の多い部位を避け、柔らかく肉付きのよい（骨のない）清潔で乾いた箇所を選んでください。



STEP 3

穿刺部位をマッサージする

血行をよくするため、穿刺部位を優しくマッサージします。測定に十分な量の血液が出にくい場合は、穿刺部位を強めにマッサージするか少し温めると採血しやすくなります。



STEP 4

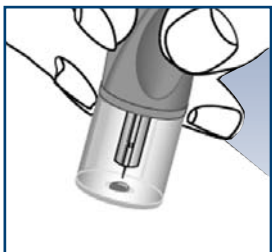
穿刺器具を穿刺部位にあてる

穿刺器具を前腕にあてて数秒間押さえ続け、穿刺ボタンを押します。

STEP 5

測定に十分な血液量を確保するまで待つ

測定に十分な量の血液が得られるまで、穿刺器具を皮膚にあてたまま数秒間待ちます。センサーの確認窓に十分な量の血液（1 μ L：●）が吸引されるまで、穿刺器具のキャップの下に血液が出てくるのをお待ちください。このとき穿刺部位を無理に押さえるなどして血液をしぼり出さないでください。



前腕に打ち身がある場合は、指先からの採血をお勧めします。前腕からの採血に関して問題がある場合は、医師にご相談ください。

前腕から採血する場合の注意事項

- ▶ 特定の条件下では、前腕から採血した血糖測定結果が指先から採血した測定結果と異なることがあります。
- ▶ これらの違いが生じる可能性が高くなる条件としては、食事やインスリン投与または運動の後で血糖値が急激に変化する場合が考えられます。
- ▶ 血糖値が急激に変化した場合、前腕から採血した血液よりも指先から採取した血液に先に変化が現れます。
- ▶ 血糖値が低下している場合、指先から採取した血液の方が前腕から採取した血液よりも低血糖が早く分かることがあります。
- ▶ 前腕から採血して測定する場合は、必ず食事、インスリン投与、運動の前、もしくはその2時間以上後に行ってください。
- ▶ 食事、インスリン投与、運動後2時間以内の測定や、血糖値の急激な変化を自覚したときは、指先から採血して測定してください。
- ▶ また、車を運転するときなど低血糖（インスリン作用による）が心配な場合、特に無自覚性低血糖（インスリン作用による低血糖の自覚症状がない）の経験のある方は、前腕からの採血による測定では低血糖が検出されないおそれがありますので、必ず指先から採血して測定してください。

留意点

- ▶ 食事、インスリン投与、運動の前、もしくはその2時間以上後に測定する場合は、前腕からでも指先からでも採血することができます。
- ▶ 食前の日常測定は、指先または前腕から採血することができます。
- ▶ 前腕から採血して測定を行う前に、医師にご相談ください。

測定手順

STEP 1

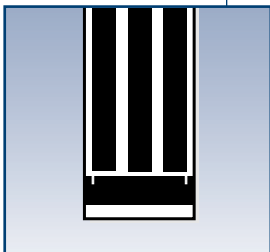
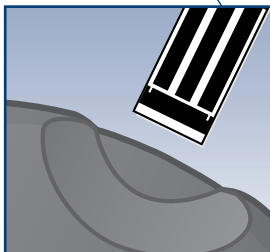
センサーを挿入する

コンタクトバーのある面を上向きにして、図のようにセンサーをセンサー挿入口に挿入します。しっかり奥まで挿入してください。測定器の電源が入り、すべての表示が一時的に表示されます。次に、コード番号が表示され、続いて▲と測定単位（mg/dL）が表示されます。測定器の画面に表示されるコード番号とLFSクイックセンサー[®]の容器ラベルに印字されているコード番号が一致していることを確認します。血糖値を測定する際は、測定単位がmg/dLになっていることを必ず確認してください。

警告：測定単位がmmol/Lで表示されている場合は、使用を中止し、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。他の測定単位を使用すると、血糖値が誤って解釈され、適切でない治療が行われる可能性があります。

測定器のコード番号とセンサーのコード番号が一致していることを確認します。一致していない場合は、測定器に正しいコード番号を入力してください。（10～12ページ参照）

注意：測定器の画面に表示されるコード番号とセンサーの容器ラベルのコード番号が一致しないと、正しい測定結果が得られません。測定前に必ず、コード番号が一致していることを確認してください。

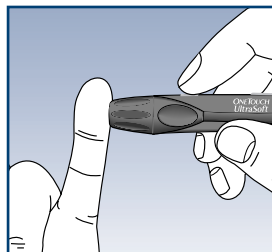


こちら側から挿入

STEP 2

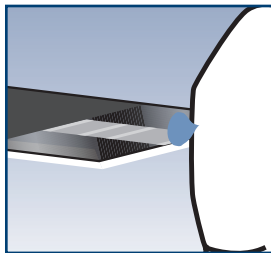
血液をつける

穿刺器具を使用して血液を採取します。確認窓を満たせるように、**少なくとも1マイクロリットル (1 μ L : ●) の血液量が必要です。**

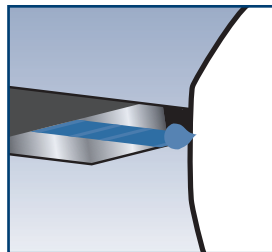
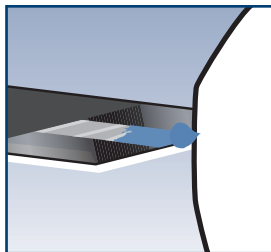


画面に  が表示されたら、**センサーの上端部にある細い溝に血液をつけます。**

- ▶ センサーを採血部位に押し付けないこと。
- ▶ センサーの表面または裏面に血液をつけないこと。
- ▶ センサーに血液をこすりつけないこと。

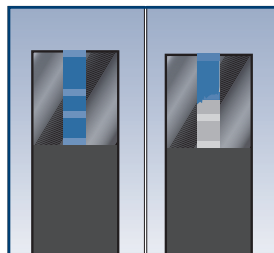


確認窓が血液で満たされ、測定器が秒読みを開始するまで、血液をセンサーの上端部につけたままにしてください。測定



器が秒読みを開始する前に確認窓が完全に血液で満たされない場合は、**センサーに血液を2度づけせず**、新しいセンサーで測定し直してください。センサーに血液をつける際に問題がある場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。

確認窓が完全に血液で染まっていない場合、「E_{rs}」と画面に表示される（53ページ参照）、もしくは正しくない測定結果になることがあります。



血液量が
十分な例

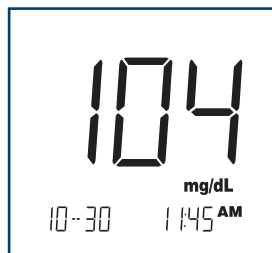
血液量が
少なすぎる例

注意：▲が表示されてから2分以内に血液をつけないと、測定器の電源は自動的に切れます。電源が切れてしまった場合は、センサーを取り出し、再度測定器に挿入して測定手順をやり直してください。

STEP 3

5秒後に測定結果を表示

測定器は5から1まで秒読みして、測定結果が表示されます。測定結果は自動的に測定器のメモリーに記録されますが、自己管理ノートなどに記録しておくことをおすすめします。センサーを抜いて測定器の電源を切ります。使用済みセンサーは密閉容器などに廃棄してください。



例

血糖値に換算された測定結果

警告：測定単位がmg/dLで表示されていない場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。

注意：室温などが許容温度範囲の下限（6℃）のときに測定した血糖値が高い（180 mg/dLより高い）場合、測定結果の血糖値は実際よりも低い可能性があります。このような場合は、できるだけ早く新しいセンサーを使いもう少し暖かい場所で再測定してください。

使用済みのセンサーおよびランセットの廃棄

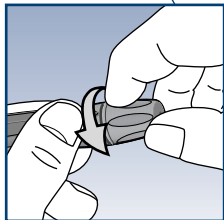
使用済みのランセットは感染防止に配慮して、細心の注意を払って廃棄してください。

使用済みのセンサーおよびランセットは、感染性廃棄物として取り扱い、お住まいの地域の廃棄方法にしたがって、適切に廃棄してください。

STEP 1

穿刺器具のキャップを外す

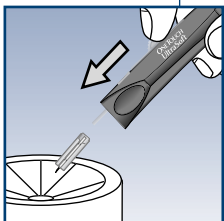
穿刺器具のキャップを反時計回りに回します。（ランセットの保護キャップを硬い台の上に置き、穿刺ボタンを押しながら使用済みのランセットの上に保護キャップを取り付けてください。）



STEP 2

ランセットを外す

穿刺器具を廃棄用容器の方へ向け、穿刺ボタンを押して、穿刺器具が固定されていないことを確認してください。レバーを前方にスライドさせて、ランセットを廃棄用容器に直接排出します。レバーを元の位置に戻し、キャップをはめます。

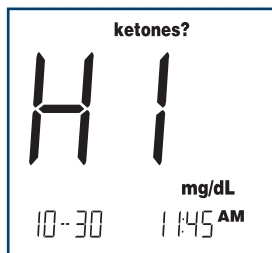


重要な画面表示

測定器は、20～600 mg/dLの範囲の測定結果を表示します。測定結果が20 mg/dL未満の場合は、測定器に「LO」と表示されます。これは**重篤な低血糖（血糖値が非常に低い状態）**が疑われます。ただちに医師の指示にしたがってください。



血糖測定の結果が600 mg/dLを超える場合は、測定器に「HI」と表示されます。これは重篤な高血糖（血糖値が非常に高い状態）が疑われます。ただちに医師の指示にしたがってください。



血糖測定の結果が240 mg/dLを超える場合、または「HI」と表示される場合は、測定器に「ketones?」と表示されます。このメッセージは、測定器がケトン体を検出したという意味ではなく、ケトン体の検査を受けることをおすすめするためのものです。ケトン体の検査の時期と方法については、医師にご相談ください。



例

メモリー機能の使い方

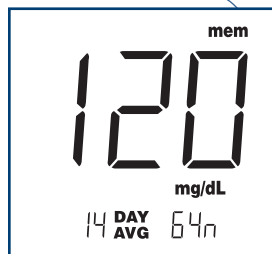
ワンタッチウルトラ™は過去150回分の測定結果（血糖測定とコントロールテスト）を日時・時刻とともにメモリーに記録することができます。また、過去14日間および30日間の血糖測定の平均値も表示します。過去14日間および30日間の測定結果の平均値が予想外のものである場合は、その平均値表示は使用しないでください。次の方法でメモリーに記録されている測定値を確認することができます。

STEP 1

メモリー画面にする

測定器の電源が切れた状態または測定後にメモリー画面にすることができます。M ボタンを押します。「mem」の表示と14日間の平均値が、この期間に行った血糖測定の回数とともに表示されます。（例えば、64nと表示された場合には、この期間中に測定が64回行われたことを示します。）約3秒後に30日間の平均値が表示されます。（測定器を初めて使用する場合、「---」が表示され、メモリーに測定結果が記録されていないことを示します。）

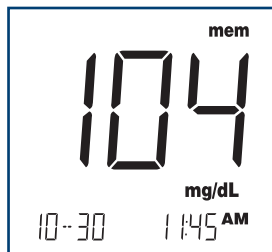
これらの平均値は過去14日間と30日間に得られた血糖値から計算されます。HIの結果は600 mg/dLとして平均値に含まれ、LOの結果は20mg/dLとして平均値に含まれます。コントロールテストとして記録された結果は、平均値には含まれません。過去14日間および30日間の測定結果の平均値が予想外のものである場合は、その平均値表示は使用しないでください。



STEP 2

過去の測定値を呼び出す

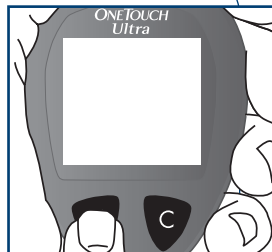
最新の測定値およびその日付と時刻が表示されます。C ボタンを1回押すと、次に新しい測定値が表示されます。測定器は過去の測定値を最大150回分まで新しいものから順に呼び出します。メモリーが150回分に達していない場合、メモリーの無い画面に達したら「- - -」が表示されます。メモリーに記録されている測定値が150回を越えると、新しい測定値が加わるたびに、最も古い測定値が消えていきます。C ボタンを押し続けると、測定値が連続的に表示されます。コントロールテストの結果の場合は、画面に「ctl」と表示されます。



STEP 3

メモリー画面を終了する

M ボタンを押して測定器の電源を切ります。



測定器と検査室での測定結果の比較

ワンタッチウルトラ™の測定値は、医療機関の検査室の測定値である血漿グルコース濃度に換算した値が表示されます。ただし、測定器による血糖値と検査室の血糖値には、外的要因により差が生じることがあります。測定器による血糖値は、検査室の血糖値には影響しないような因子および条件の影響を受けることがあります。ワンタッチウルトラ™の血糖値は、通常の下では、ほとんどの場合、検査室の測定値の±20%以内に入ります。測定結果がこの範囲内であれば、測定器による測定値は正確であると考えられます。ただし、状況によっては測定結果が±20%の範囲を超える場合がありますので、LFSクイックセンサー®の添付文書にある「性能」および「使用上又は取り扱い上の注意」などをお読みください。

測定器と検査室の測定値を正確に比較するには、以下の手順に従ってください。

病院へ行く前に：

- ▶ コントロールテストを行い、測定器が正しく機能することを確認してください。
- ▶ 比較測定を行う前は少なくとも8時間、食事をしないでください。
- ▶ 使用している測定器をご持参ください。

検査室では：

- ▶ 測定器による測定と検査室の分析器による測定は、必ず15分以内の間隔で行ってください。
- ▶ 採血する前に手を洗ってください。
- ▶ 指先から採取した新鮮な毛細管全血だけを使ってください。

特別な原因がなくとも、生理的に測定結果が変動することがあります。特に、食事、運動、服薬、ストレスを経験した直後には、血糖値が短期間に大幅に変わることがあります¹。食事をした直後には、指先から採取した血液は、検査室の測定で使われる静脈血の場合より血糖値が最大70mg/dL高くなることがあります²。このような理由から、比較測定を行う前の8時間は食事をしないのが最善です。ヘマトクリット値（血液中に占める赤血球の容積）の高低や体液の損失（重症の脱水状態）のような要素も、測定器の測定値と検査室などの測定値との間に差が生じる原因となります。

参考文献

1. Surwit, R.S., and Feinglos, M.N.: *Diabetes Forecast* (1988), April, p. 49–51.
2. Sacks, D.B.: “Carbohydrates.” Burtis, C.A., and Ashwood, E.R. (ed.), *Tietz Textbook of Clinical Chemistry*. Philadelphia: W.B. Saunders Company (1994), p. 959.

測定器の設定

測定器を初めて使用する際や、電池を交換した後は、測定器の設定を更新する必要があります。

以下の説明にしたがい行ってください。ご不明な点は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）にお問い合わせください。



STEP 1

測定器設定画面にする

- 測定器の電源が切れていることを確認します。
- 右下に時刻だけが表示される画面になるまで、**M** ボタンを押し続けます。
- **M** ボタンを放します。

注意：変更内容を保存するには、設定を最後まで（「日」の設定まで）行う必要があります。

AM/PM（12時間表示）の時刻表示になっている場合は、「時」の設定中AMまたはPMが点滅します。12:00になるたびにAMとPMが切り替わります。AMまたはPMに正しく設定されていることを確認してください。

STEP 2

「時」の設定

- C** ボタンを押して「時」を変更します。設定したい「時」を過ぎてしまった場合は、設定したい「時」が表示されるまで **C** ボタンを数回押します。

はやく進めるには **C** ボタンを押し続けます。

- M** ボタンを押して次のステップに進みます。

点滅している部分を変更できます



STEP 3

「分」の設定

- C** ボタンを押して設定したい「分」に変更します。

- M** ボタンを押して次のステップに進みます。

STEP 4

AM/PMまたは24時間表示に設定する



AM/PM表示



24時間表示

C ボタンを押して、時刻の表示をAM/PM（12時間表示）または24時間表示にします。

M ボタンを押して次のステップに進みます。

STEP 5

「年」の設定

C ボタンを押して設定したい「年」に変更します。

M ボタンを押して次のステップに進みます。





STEP 6

「月」の設定

C ボタンを押して設定したい「月」に変更します。

M ボタンを押して次のステップに進みます。



STEP 7

「日」の設定

C ボタンを押して設定したい「日」に変更します。

M ボタンを押します。

「日」の設定後に測定器の電源が切れれば、測定器の設定が完了して変更内容が保存されています。

注意：測定器のメモリーに記録されている14日間および30日間の平均値は、現在の日付と時刻の設定をもとにした過去14日間および30日間の血糖測定値から計算されます。日付や時刻を変更すると、平均値も変わることがあります。過去14日間および30日間の測定結果の平均値が予想外のものである場合は、その平均値表示は使用しないでください。

お手入れ

ワンタッチウルトラ™（自己検査用グルコース測定器）

測定器は、特別なお手入れや掃除の必要はありません。センサー挿入口やデータポートから測定器の中にごみ、ほこり、血液、コントロール溶液、水などが入らないようにしてください。使用後は測定器をキャリングケースに収納して保管してください。

測定器の表面は、水または中性洗剤を含ませた布などで拭くことができます。測定器は精密機器です。注意深くお取り扱いください。

測定器のお手入れにアルコールやその他の溶剤は使用しないでください。

ワンタッチウルトラソフト™（穿刺器具）

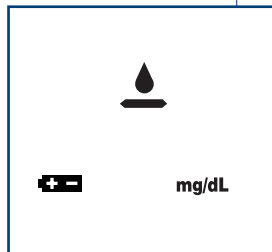
本体およびキャップ、透明キャップは石鹼水を含ませた布で丁寧に拭き取ります。本体の消毒には、家庭用漂白剤と水を1：10の比率で混ぜた消毒液を使用してください。この消毒液に浸した布で本体を丁寧に拭きます。キャップは消毒液に30分以上浸してください。**本体は水などに浸さないでください。**消毒後、穿刺器具は水を含ませた布で拭き、キャップは水ですすぎ、完全に乾かしてください。

電池

ワンタッチウルトラ™にはリチウム電池（CR2032または同等品3.0V）1個が装填されています。この電池で約1,000回の測定を行うことができます。交換するときはリチウム電池（CR2032または同等品3.0V）を使用してください。

電池が消耗してくると、測定器は2種類の表示で知らせます。

測定器に電源が入り、すべての表示が画面に一時的に現れた後、測定単位（mg/dL）とともに**+-**が表示されます。**+-**の表示が出てから約50回分の測定が行えます。測定結果は正確ですが、早めに電池を交換してください。



+**-** が単独で画面に表示される
ときは、電池が消耗していて測
定を行うことができません。電
池を交換してください。



電池を交換する時には、測定器の電源が入っていないこ
とを確認してください。電池装填部の場所を確認するた
めに、測定器を裏返してください。



STEP 1

電池装填部のカバーを開ける

カバーのツメを押し上げ、電池
装填部のカバーを手前に引っ張
ります。



STEP 2

電池を取り出す

透明のプラスチック製のリボンを引き上げます。新しいリチウム電池（CR2032または同等品3.0V）を装填します。電池の+極側を上向きに入れてください。

STEP 3

カバーをもどす

電池装填部にカバーをもどします。
「カチッ」と音がするまで押し下げます。



STEP 4

時刻、日付、測定単位を確認する

電池の交換後、センサーを挿入するか、

M ボタンを押して測定器の電源を入れます。もし設定画面の状態であれば、時刻、時刻の表示方法、日付が正しいかどうかを確認してください。もし正しく設定されていなかった場合は、**M** ボタンか **C** ボタンを押して、測定前に設定し直してください（38 ～ 41 ページ「測定器の設定」を参照）。また、測定単位がmg/dLになっていることを確認してください。

警告：測定単位がmg/dLと表示されていない場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。

注意：電池を交換しても、測定器のメモリーに記録されている過去の測定値には影響ありません。ただし、時刻と日付は設定し直さなければならない場合があります。**測定単位がmg/dLになっていることを必ず確認してください。**

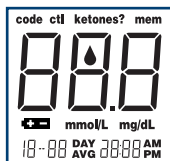
画面表示とトラブル時の対処法

ここではワンタッチウルトラ™の画面表示について説明しています。これらの画面表示は問題の特定に役立ちますが、すべての問題が画面に表示されるわけではありません。また、不適切な使い方をした場合、画面表示による警告なしに、不正確な測定値を表示することもありますのでご注意ください。問題が発生した場合は、「処置」の欄をご参照いただくか、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。

画面表示

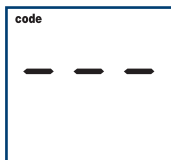
表示の意味

処置



画面チェックです。測定器に電源を入れる则表示されます。すべての画面表示が正しく表示されていることを確認するには、**M** ボタンを押してからすぐに **C** ボタンを押してください。測定器の画面を 10 ページと比較してください。

全ての表示が画面に表示されていない場合は、使用を中止し、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。測定結果を誤って解釈するおそれがあります。

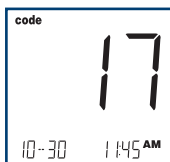


1. 測定器にセンサーのコード番号が入力されていない場合、画面チェックの直後に表示されます。
2. 一度コード設定をした後、このメッセージがいつも表示されるような場合は、コード番号が消去されており、メモリーに入っている測定結果も正しくない可能性があります。
1. 「センサーのコード番号入力」（10～12 ページ）を参照してください。
2. **14 日間および 30 日間の平均値表示は使用しないでください。**
コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。

画面表示

表示の意味

処置

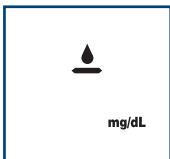


例

測定器に入力されているコード番号です。

このコード番号が、使用するセンサーの容器ラベルに印字されているコード番号と一致していることを確認してください。

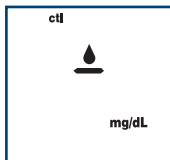
注意：測定器の画面に表示されるコード番号とセンサーの容器ラベルのコード番号が一致しないと、正しい測定結果が得られません。測定前に必ず、コード番号が一致していることを確認してください。



血糖測定の準備ができたことを示します。測定単位がmg/dLになっていることを確認してください。

センサーの血液吸引部分に血液をつけてください。

警告：mg/dLと ⬇ 記号が表示されていない場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。



コントロールテストの準備ができたことを示します。測定単位がmg/dLになっていることを確認してください。

センサーの血液吸引部分にコントロール溶液をつけてください。

警告：測定単位がmg/dLと表示されていない場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。



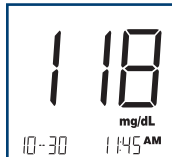
5秒間の秒読みが始まります。測定器が測定を行っています。秒読み終了後に測定結果が表示されます。

—————

画面表示

表示の意味

処置



例

血糖測定結果（mg/dL）。
測定単位がmg/dLになっていることを確認してください。

—————

警告：測定単位がmg/dLと表示されていない場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。



例

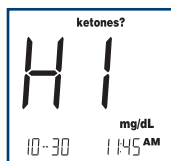
血糖値の表示と同時に、
ケトン体の検査が必要かもしれないことを示します。

ケトン体の検査については、医師に相談してください。

画面表示

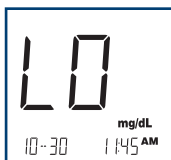
表示の意味

処置



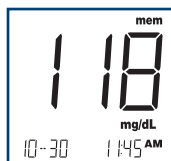
血糖値が600mg/dLを超えており、非常に高くなっているおそれがあります。

ただちに医師の指示にしたがってください。



血糖値が20mg/dL未満で、非常に低くなっているおそれがあります。

ただちに医師の指示にしたがってください。



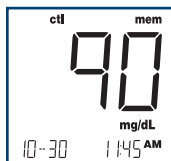
測定器のメモリーに記録されている測定結果です。
(この場合、10月30日午前11時45分の測定結果)
測定単位がmg/dLになっていることを確認してください。

—————
警告：測定単位がmg/dLと表示されていない場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。

画面表示

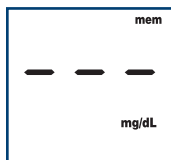
表示の意味

処置



測定器のメモリーに記録されているコントロールテストの結果です。測定単位がmg/dLになっていることを確認してください。

警告：測定単位がmg/dLと表示されていない場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。

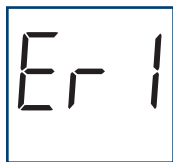


メモリーに測定値が記録されていません。



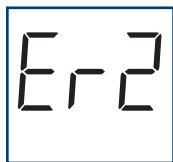
過去14日間の平均値です（「64n」はこの期間に64回測定が行われたことを示します）。「30」の場合は過去30日間の平均値が表示されます。測定単位がmg/dLになっていることを確認してください。

過去14日間および30日間の測定結果の平均値が予想外のものである場合は、その平均値表示を使用しないでください。
警告：測定単位がmg/dLと表示されていない場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。



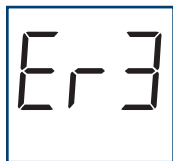
測定器に何か問題が生じたことを示します。

測定器の使用を中止して、コールセンター
(無料通話：0120-113-903) までご連絡ください。



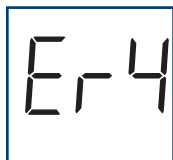
使用済みのセンサーを測定器に挿入したか、または測定器に問題があることが考えられます。

新しいセンサーで再測定してください。センサーの詳細については、8～9ページを参照してください。問題が続く場合は、コールセンター(無料通話：0120-113-903) までご連絡ください。



が表示される前に血液またはコントロール溶液が付着したことを示します。

新しいセンサーで再測定してください。必ず、が表示されてから血液またはコントロール溶液をセンサーにつけてください。血液のつけ方については、29～30ページを参照してください。



次のいずれかの問題が生じた可能性があることを示します。

1. 許容温度範囲（6～44℃）の下限に近い温度環境で、血糖値が高い血液を測定した可能性があります。
1. 低い温度環境で測定をしていた場合は、もう少し暖かい場所で新しいセンサーを使用して再測定してください。
エラーメッセージが再び表示された場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。
2. センサーに問題がある可能性があります。センサーに損傷があるか、測定中に動いたことが考えられます。
2. 許容温度範囲内で測定をしていた場合は、新しいセンサーで再測定してください。（センサーについては、8～9ページを参照）エラーメッセージが再び表示された場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。
3. 血液のつけ方が正しくなかったことを示しています。
3. 血液のつけ方が正しくなかった場合には、29～30ページの測定手順を参照して、新しいセンサーを使用して再測定してください。
エラーメッセージが再び表示された場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。

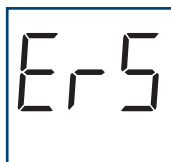
画面表示

表示の意味

処置

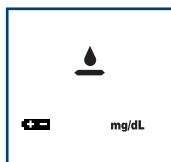
4. 測定器に問題がある可能性あります。

4. エラーメッセージが表示された場合は、コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。



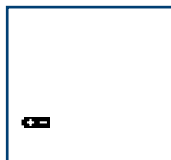
センサーに問題があることを測定器が検出したことを示します。センサーが損傷しているか、確認窓が完全に満たされていないことが考えられます。

新しいセンサーで再測定してください。血液のつけ方については、29～30ページを参照してください。



⚡が測定単位（mg/dL）とともに表示されています。電池が消耗しています。この表示が出てから約50回の測定を行うことができます。

測定結果は正確ですが、早めに電池を交換してください。



⚡が単独で画面に表示されています。電池が消耗していて測定を行うことができません。

すぐに電池を交換してください。電池を交換しないと測定器は使用できません。

画面表示

表示の意味

処置



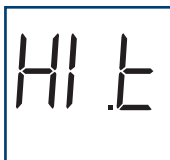
時刻表示の点滅は、電圧が一時的に不足し、設定画面になったことを示します。

時刻、時刻の表示方法、日付を再設定してください。(38～41ページ「測定器の設定」を参照。) また、測定単位がmg/dLになっていることを確認してください。測定単位がmg/dLと表示されない場合は、コールセンター(無料通話：0120-113-903)までご連絡ください。



温度が測定器あるいはセンサーの許容温度範囲を下回っています。測定器とセンサーの温度が、**許容温度範囲(6～44℃)**になるまで測定しないでください。

測定器とセンサーの温度が許容温度範囲になってから、再測定してください。



温度が測定器あるいはセンサーの許容温度範囲を上回っています。測定器とセンサーの温度が、**許容温度範囲(6～44℃)**になるまで測定しないでください。

測定器とセンサーの温度が許容温度範囲になってから、再測定してください。

センサーを挿入しても何も表示されない場合

考えられる原因	処置
電池切れ	電池を交換してください。
電池が入っていないか、 入れ方が正しくない。	電池が+極側を上にして正しく入っているかどうか確認してください。
センサーが正しく挿入されていないか、完全に挿入されていない。	センサーは、コンタクトバーのある面を上向きにして、センサー挿入口に正しく挿入してください。しっかり奥まで挿入してください。
測定器またはセンサーに不具合がある。	コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。

血液をセンサーにつけても測定が始まらない場合

考えられる原因	処置
血液量が不十分である。	新しいセンサーで血液量を多くして再測定してください。センサーの上端部にある細い溝に血液をつけてください。
センサーが損傷している。	新しいセンサーで再測定してください。
測定器の電源が切れてからセンサーに血液をつけた（測定器は前の操作から2分後に自動的に電源が切れます）。	新しいセンサーに交換し、画面に  が表示されている間に血液をつけて再測定してください。
測定器に不具合がある。	コールセンター（無料通話：0120-113-903）までご連絡ください。

仕様

測定範囲	20～600mg/dL
測定値	血漿グルコース濃度に換算した値で表示
検体	新鮮な毛細管全血
検体量	1 μ L以上
測定時間	5秒
測定方法	酵素電極法
電源	リチウム電池（CR2032または同等品3.0V）1個
電池の寿命	測定約1,000回、または1日3回の測定で約1年間
血糖値の単位	mg/dL
メモリー機能	150回分の血糖値およびコントロールテスト
自動切電機能	前の操作から2分後
寸法	7.92cm x 5.72cm x 2.16cm
重量	42.5g（電池を含む）
動作範囲	温度：6～44℃ 湿度：10～90%
ヘマトクリット値	30～55%

保証

ご購入後、万ーワンタッチウルトラ™に故障が生じた場合、3年に限り無償でお取替えいたします。ただし、次のような場合は保証期間内でも有償となります。

1. 使用上の誤り、不当な修理により生じた故障、損傷
2. 火災、地震などの天災・地変による故障、損傷
3. ご購入後の移動、輸送などによる故障、損傷
4. 電池の損傷または故障
5. その他当社の責によらない故障、損傷
6. お客様登録カードのご提出がない場合

製品の安全に関する重要なお知らせ

ワンタッチウルトラ™ は以下の規格に適合しています。

IEC（国際電気標準会議規格）IEC 60601-1

- ▶ 内部電源機器。交換可能な3.0Vのリチウム電池で動作する電源。
- ▶ 本測定器は、可燃性麻酔薬と空気、酸素、亜酸化窒素の混合物の存在下での使用には適しません。
- ▶ 連続操作モード
- ▶ 感電に対する保護レベルBFタイプ医療機器に適した電気的安全性が確保されています。

索引

Mボタン	5
LFSクイックセンサー®	8
LFSクイックセンサー®、コード番号	10
LFSクイックセンサー®専用コントロール溶液	13
LFSクイックセンサー®、有効期限	9
お手入れ	42
画面の確認	10
画面表示とトラブル時の対処法	46
感染の防止	21
許容温度範囲	14, 56
ケトン体	33, 48
検査室での測定結果、測定器の測定結果との比較	36
高血糖	3, 33
コントロール溶液	14
コントロール溶液によるシステムのテスト	13
血漿値への換算	vi, 36, 56
Cボタン	5
時刻、変更	39
重要な画面表示	32
仕様	56
使用済みのセンサーおよびランセットの廃棄	31
センサー挿入口	5
センサーの取扱上の注意	9
センサーのコード番号の確認	10
前腕からの採血	25
前腕から採血する場合の注意事項	27
測定器の設定	38
測定単位 (mg/dL)	ii, 7, 28, 47, 48
測定手順	28
脱水症状	3
低血糖	3, 32

データポート	5
電池	43, 53, 56, 57
日付、変更	41
平均値、14日間および30日間	34, 41, 50
保証	57
メモリー機能	34
指先からの採血	24
予期せぬ結果	3, 34
ランセット	21, 22
ランセットの廃棄	31
ワンタッチウルトラ™（自己検査用グルコース測定器）	5
ワンタッチウルトラ™血糖自己測定システム	4
ワンタッチウルトラ™（自己検査用グルコース測定器） の画面表示	6-7
ワンタッチウルトラソフト™（穿刺器具）を準備する	21

メモ

メモ

メモ

メモ

メモ

メモ

メモ